

1. 単元名 エコアイランド宮古島（SDGs）－大切な水を守ろう－

2. 単元の目標

- ・資源には限りがあり、現在の生活を続けていくには、環境などに配慮した行動をしていく必要があることを知る。 (知識・技能)
- ・宮古島の水資源について、見たり、聞いたり、調べたりしながら、自身の考えを表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・宮古島や環境のために自分ができることを考え、掲示物としてまとめたり、保護者や友達へ伝えたりするなど、主体的に行動しようとするすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 生徒観

本学習グループは1～3年生までの複数学年で構成され、障害の特性や理解の程度、作業能力等の個人差が大きい。発語がなく自身の考えを表現することが難しい生徒や簡単な意思疎通は可能だが複雑な思考を表現することが難しい生徒も在籍しているが、半数以上の生徒は自分の考えをまとめ、発表することができる学習グループである。また、宿題を自分から要求するなど学習意欲は高い反面、思考を伴う課題に対しては苦手意識を持っている生徒が多い学習グループでもある。そして、その自信の無さから発表や行動には消極的であり、必要以上に教師に確認をする生徒も見られる。本学習グループの生徒は自分で考え、行動する、主体性の面に関して課題がある。この主体性を育むために、自分自身で考え、自身の考えを表現し、行動する活動に取り組みせたい。

(2) 教材観

宮古島市が作成した資料「エコアイランド宮古島の取り組みについて～持続可能な島づくり～（～宮古島市版 SDGs の推進～）」によると、住み続けられる島を実現するための課題として、「ライフスタイルの変化や産業経済活動の活発化に伴う自然環境への負荷増大。生活の源となる水を始め、観光資源でもある自然環境の保全が必要。」などが挙げられている。本単元は、四方を海に囲まれ、台風や干ばつを受けやすい厳しい自然環境にある宮古島に住んでいる子ども達だからからこそ、より一層水を大切に作る姿勢を養うことができる単元だと考える。そして、言葉の意味から資源の有用性の理解や環境を守る意識を醸成することをねらって、単元名をエコアイランド宮古島に設定した。

しかし、本単元の内容は、本学習グループの生徒たちにとって一人で考えることが難しいことも想定される。そこで、友達と一緒に考えたり、詳しくそうな人へインタビューをしたりするなど、体験的な活動場面を設定する。この体験を通して、自分ひとりではできないことも、相談したり、聞いたりして問題を解決することができるということを学ばせたい。

(3) 指導観

主体的な学びの実現に向けて、単元前半では宮古島の「良さ」を考えさせる問いから始める。その後、「良さ」と対極的な状況にある世界の事例を紹介し、島の「良さ」は当たり前にあるものではない、守っていかなければならない、ことに気づかせる。宮古島市が出している課題を提示し、その中から水問題について考えていくことを示し、学習の見通しを持たせる。そして、「いつでも水が使えるのはなぜ?」「宮古島で生活していて水で困ることは?」の問いに対して、調べ学習(①自分で考える。②友達と相談する。③本やインターネットで調べる。④詳しくそうな人に聞く。)をさせる。グループ活動やインタビューを通して、コミュニケーションスキルの育成も図りたい。調べたことを発表させる場面を設定することで、調べ学習に対しての達成感を味わわせ、自信を付けさせたい。

単元中盤では、校外学習で地下ダム資料館へ行き、宮古島の水問題に対する対策の歴史を学びながら、貴重な水源を確保するために地下ダムがあることを学ばせる。地下ダムは直接見ることが出来ないため、地下ダム資料館に展示されている模型や敷地内にある見学用の地下ダムを見ることで、抽象的な思考が苦手な子どもたちにも、イメージができるようにする。また、公共施設を利用することで、その利用の仕方を学ばせ、校外でも学ぶ環境があることを理解させる。さらに、水道が整備させる以前は、水を確保するために高低差のある足場の悪い道を何往復もしていた過去を学ぶため、湧き水(宮古の言葉で、「ガー」)の見学も計画する。現在の豊かな生活があるのは、過去の人々の苦勞があってこそ成り立っていることを体験を通して学ばせ、将来の人々のために何ができるのか考えるきっかけにしたい。

単元後半では、ワークシートの前半と後半に設定した、同じ問い「環境に優しい行動って何?」に対しての自身の考えの変容に気付かせ、学びの効果を実感させる。そして、環境を守るために「自分ができることは何?」を考えさせ、環境に配慮した考えや行動ができるように指導する。さらに、単元を通して学んだことを掲示物として作成させる。作成物を活用して、学んだことを他学部の児童生徒や教員、保護者などへ伝えさせることで、理解を深めさせ、学んだことを生活へ生かさせるようにする。最後に、この一人ひとりの取り組みはSDGsという世界の目標に繋がり、地球のためにもなるということを理解させたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

- 有限性・・・離島にとって水は貴重な資源であり、その有限性を自覚することが大切であること。
 - 公平性・・・資源の確保や保全に取り組んできた過去があるから、現在の豊かな資源が存在する。
- これらを未来へ残すために、今できることを考えて努力することが大切であること。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力(クリティカル・シンキング)

資源を大切に使おうと行動をしているか、自分の生活を見つめ直す。

コミュニケーションを行う力

宮古島の水問題について、知っている人に聞いたりしながら考えをまとめていく。

他者と協力する態度

友達と相談しながら、協力して調べ学習に取り組む。

つながりを尊重する態度

地域の公共施設を活用して学習する。

資源を大切にしようとして努力していくことが、地球規模の課題と密接に関わっていることに気づく。

進んで参加する態度

学習したことをみんなで協力しながら掲示物にまとめ、発表する。また、家庭や他学部の児童生徒に話すことで、環境問題に積極的に関わろうとする意識をもつ。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

過去から受け継いだ貴重な資源を未来へと繋げていく。

自然環境や生態系保全を重視する

豊かな自然は常にあるものではなく、守っていく必要がある。

・ 達成が期待される SDGs

6 安全な水の確保

11 持続可能な水源の確保

17 当事者意識の確立

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①「資源」という言葉の意味を理解することができる。 ②資源には限りがあることを知ることができる。 ③環境に配慮した行動を知ることができる。	①宮古島の水問題について、人に聞いたり、調べたりしながら、自分なりの考えをもつことができる。 ②校外学習を通して、学んだことを自分なりの方法で表現することができる。	①宮古島や環境のために、自分ができることを考え、他者へ伝えようすることができる。 ②環境に配慮した行動を、日常生活で実践しようとするすることができる。

5. 単元の指導計画（全9時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>1 宮古島の良い所を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮古島を意識した発言があるといいな。 <p>2 宮古島と異なる世界の状況を知り、恵まれた環境が当たり前ではないことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮古島を守らないといけない。 <p>3 宮古島市が出している資料をもとに、宮古島の課題を知り、その中から水問題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水が無いと困る。 クイチャーを踊ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 間違いはないので、自由に発言しやすい環境づくりを行う。 宮古島の「良さ」と対極にある環境を紹介し、どちらが良いか考えさせる。資源の有限性を意識させる。環境に優しい行動について考えさせる。 インタビュー活動を通して、調べ学習をさせる。宿題として家の人へのインタビューも行わせる。クイチャーについて詳しい保護者へのインタビューも行わせる。 	<p>ア①② (知・技)</p> <p>ウ① (主体的)</p> <p>イ① (思判表)</p>
2	<p>4 地下ダム資料館を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地下にこんな大きいものがあるんだ。 <p>5 湧き水（ガー）の見学し、実際に高低差のある道を歩いてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔の人はこんなに大変なことをしていたんだ。 便利になってありがたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明を聞きながら見学させる。イメージができるように、適宜言葉掛けの支援を行う。 水が当たり前に見える便利さを実感させる。昔の人は重い水を担いで何往復もしていたことに気づかせる。安全には十分気を付けながら見学する。 	<p>イ② (思判表)</p> <p>イ② (思判表)</p>
3	<p>6 学習の振り返りとして、掲示物作成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境を守るための、行動目標が発言できるといいな。 自分の考えが深まったことに気づいてくれたらいいな。 <p>7 SDGsについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の行動が地球や世界のためにもなるんだな。 水以外の視点で、環境を意識した発言があるといいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 発語が無い生徒や書字ができない生徒には、写真を貼る活動やなぞり書きで文字を書くように支援を行う。単元の始め頃と比較して、自身の考えの変化に気づかせる。 SDGsの紹介時に、水以外にも様々な課題があることに気づかせる。今後どのような意識が大事になるか考えさせる。 	<p>ア③ (知・技)</p> <p>ウ①② (主体的)</p> <p>ア③ (知・技)</p> <p>ウ② (主体的)</p>

A 4 4ページにまとめる。

6 参考資料（教科との関連）

【社会】 1段階 イ (ア) ㊦身近な公共施設や公共物の役割が分かること

オ (ア) ㊦身近な地域や自分たちの市の様子がわかること

①都道府県内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。

(イ) ㊦身近な地域や自分たちの市の様子、人々の生活は、時間とともに移り変わってきたことを知る。

①交通や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

2段階 ア (ア) ㊦学級や学校の中で、意見を述べ合い、助け合い、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付けること。

ウ (ア) ㊦地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

エ (イ) ㊦水道、電気及びガスなどの生活を支える事業は、安全で安定的に供給や処理できるよう実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。

オ (イ) ㊦県内の主な歴史を手掛かりに、先人の動きや出来事、文化遺産などを知ること。

カ (イ) ㊦人々の生活の様子を大まかに理解すること。

【理科】 2段階 B ア (ア) ㊦水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。

イ (ア) ㊦水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。

C ア (ア) ㊦水は、温度によって水蒸気や氷に変わること。

【職業・家庭】 1段階 家庭 C イ (ア) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとする事。

(イ) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。

エコア일랜드宮古島(SDGs)

今の宮古

きれいな海

おいしい食べ物

やさしいおまわり

将来の宮古①

屋舎から

マングローブ

水不足

沖繩そば

沖縄そば

宮古そば

将来の宮古②

きれいな空

きれいな海

ゴミがいない

おかしな人

宮古島を守るために

宮古島を知る

宮古の木問題

か〜(井戸)

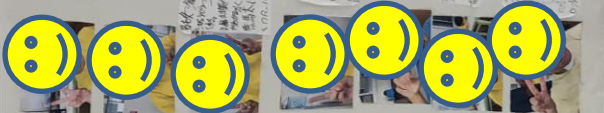
クイター

(2) 環境に優しい行動を考える

(3) 自分ができることも考える

世界のSDGsの目標

GOALS



作成した掲示物